

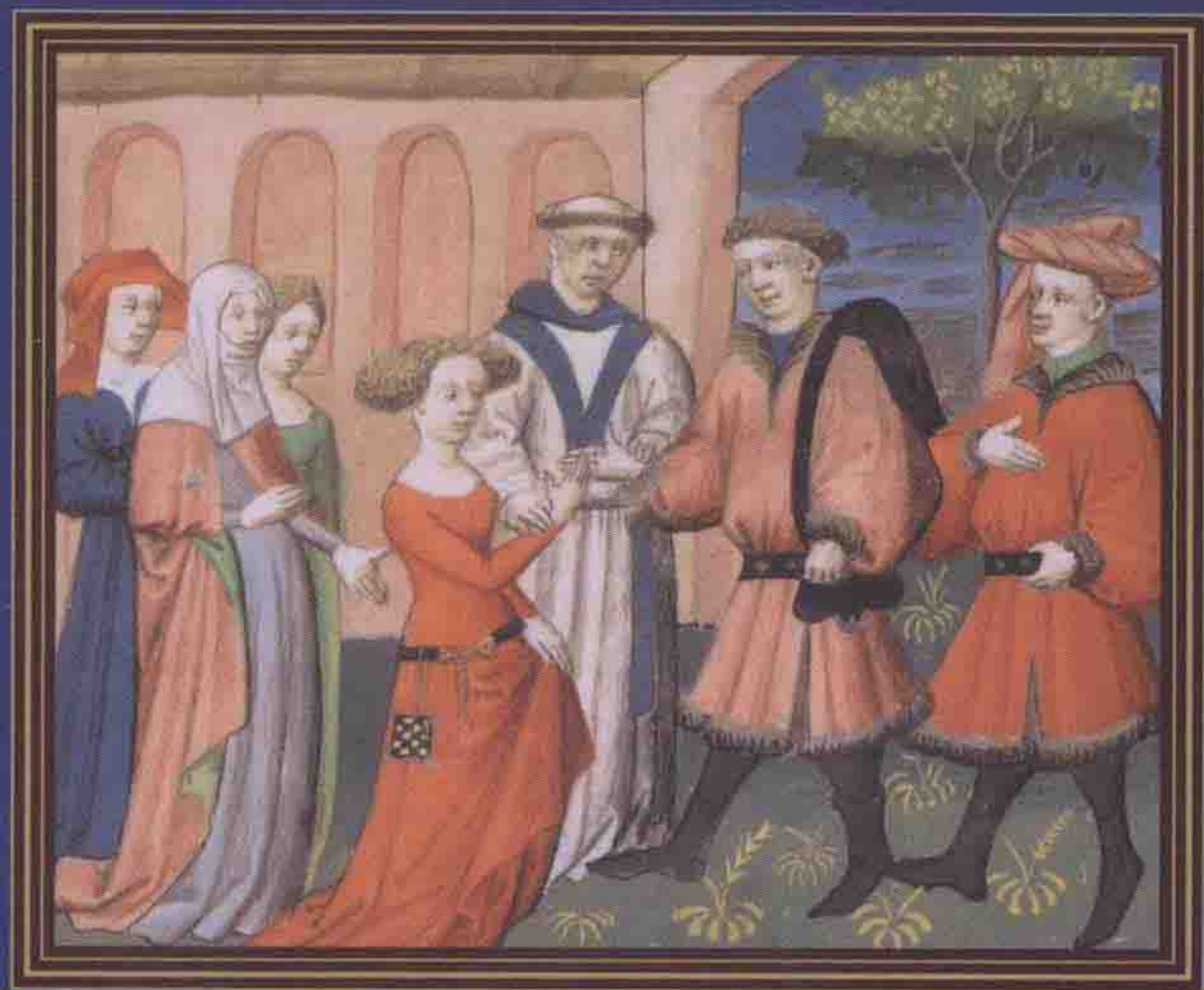
中世ヨーロッパの家族

A MEDIEVAL FAMILY The Pastons of fifteenth-century England

JOSEPH GIES & FRANCES GIES

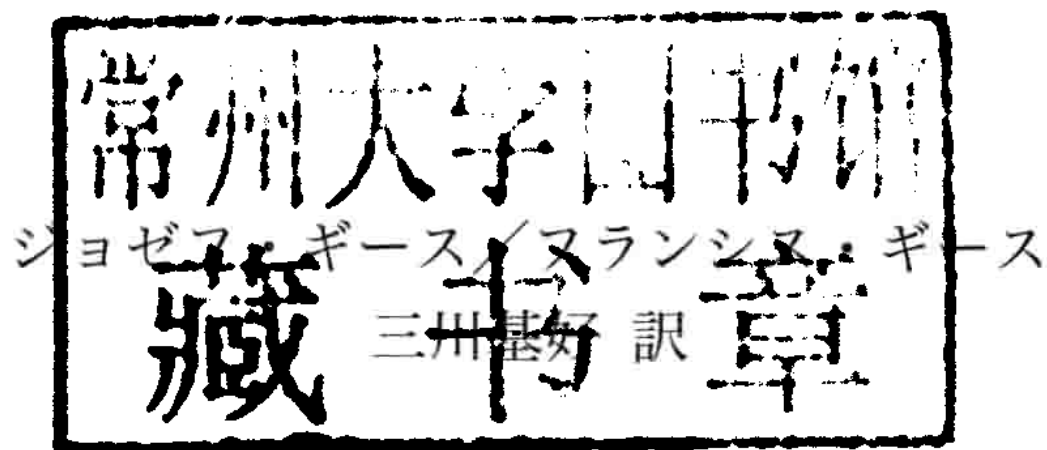
ジョゼフ・ギース/フランシス・ギース

三川基好 訳



講談社
学術文庫

中世ヨーロッパの家族



講談社学術文庫

ジョゼフ・ギース／フランシス・ギース

Joseph Gies (1916—2006), Frances Gies (1915—)。アメリカの歴史作家。中世史に関する著作多数。主著に『中世ヨーロッパの都市の生活』『大聖堂・製鉄・水車』など。

三川基好（みかわ きよし）

1950年東京生まれ。早稲田大学文学部教授在職中の2007年、逝去。主な著書に『古英語文法』（共著）、訳書に『辞書の世界史』『英語の冒険』『ゼロ時間へ』『スヌーピーの50年』『9.11生死を分けた102分』など。



定価はカバーに表示してあります。

ちゅうせい かぞく
中世ヨーロッパの家族

J・ギース, F・ギース／^{みかわ きよし}三川基好 訳

2013年7月10日 第1刷発行

発行者 鈴木 哲

発行所 株式会社講談社

東京都文京区音羽 2-12-21 〒112-8001

電話 編集部 (03) 5395-3512

販売部 (03) 5395-5817

業務部 (03) 5395-3615

装 幀 蟹江征治

印 刷 株式会社廣済堂

製 本 株式会社国宝社

本文データ制作 講談社デジタル製作部

© Fusako Mikawa 2013 Printed in Japan

落丁本・乱丁本は、購入書店名を明記のうえ、小社業務部宛にお送りください。送料小社負担にてお取替えします。なお、この本についてのお問い合わせは学術図書第一出版部学術文庫宛にお願いいたします。

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。㊞(日本複製権センター委託出版物)

ISBN978-4-06-292181-7

目次

中世ヨーロッパの家族

第一章	書簡……………	11
第二章	一族……………	39
第三章	ウィリアム判事とその子ら 一四二一年～一四四四年……………	50
第四章	土地争いとグレシヤム攻城 一四四四年～一四五〇年……………	71
第五章	退役軍人サー・ジョン・ファストルフ 一四五〇年～一四五二年……………	104
第六章	サー・ジョン・ファストルフとジョン・パストン 一四五三年～一四五九年……………	135
第七章	ファストルフの遺言をめぐる争い 一四五九年～一四六五年……………	174
第八章	ヘルズドン略取とジョン・パストンの死 一四六五年～一四六六年……………	216
第九章	王家の結婚と不釣り合いな結婚 一四六六年～一四六九年……………	248
第十章	ケイスター城攻め 一四六九年……………	280

第十一章	バーネットの戦い	一四七〇年〜一四七一年	302	
第十二章	家族間の不和、外国での戦争、およびその他の騒動	一四七二年〜一四七五年	334	
第十三章	ケイスター城回復、結婚の交渉	一四七五年〜一四七八年	369	
第十四章	死	一四七九年〜一四八四年	405	
第十五章	中世パストン家の最後		429	
	登場人物一覧		445	
	年表	パストン家と政治	一四一五年〜一五〇四年	450
	参考文献		455	
	訳者あとがき		461	
解説	史料から、なにを読むか		佐藤賢一	465

中世ヨーロッパの家族

ジョゼフ・ギース／フランシス・ギース
三川基好 訳

講談社学術文庫

A MEDIEVAL FAMILY
The Pastons of fifteenth-century England
By
FRANCES & JOSEPH GIES

Copyright © 1998 by Frances and Joseph Gies

Japanese translation rights arranged with
HarperCollins Publishers, Inc.
through Japan UNI Agency, Inc., Tokyo

目次

中世ヨーロッパの家族

第一章	書簡……………	11
第二章	一族……………	39
第三章	ウィリアム判事とその子ら 一四二一年～一四四四年……………	50
第四章	土地争いとグレシヤム攻城 一四四四年～一四五〇年……………	71
第五章	退役軍人サー・ジョン・ファストルフ 一四五〇年～一四五二年……………	104
第六章	サー・ジョン・ファストルフとジョン・パストン 一四五三年～一四五九年……………	135
第七章	ファストルフの遺言をめぐる争い 一四五九年～一四六五年……………	174
第八章	ヘルズドン略取とジョン・パストンの死 一四六五年～一四六六年……………	216
第九章	王家の結婚と不釣り合いな結婚 一四六六年～一四六九年……………	248
第十章	ケイスター城攻め 一四六九年……………	280

第十一章	バーネットの戦い	一四七〇年～一四七一年	302	
第十二章	家族間の不和、外国での戦争、およびその他の騒動	一四七二年～一四七五年	334	
第十三章	ケイスター城回復、結婚の交渉	一四七五年～一四七八年	369	
第十四章	死	一四七九年～一四八四年	405	
第十五章	中世パストン家の最後		429	
	登場人物一覧		445	
	年表	パストン家と政治	一四一五年～一五〇四年	450
	参考文献		455	
	訳者あとがき		461	
解説	史料から、なにを読むか		佐藤賢一	465

フ
イ
ツ
ツ
に

謝 辞

本書のための調査には、主にミシガン大学のハーラン・ハッチャー大学院図書館を利用させていただいた。

原稿を読んだ上で貴重な助言をしてくださった、ミシガン大学のパトリシア・マキューン博士に心から感謝する。また、英国図書館写本部、およびノーフォーク博物館サービス、さらにノリッジのキャッスル博物館のビル・ミリガンと故スー・マージソン博士に感謝を捧げたい。

中世ヨーロッパの家族

第一章 書 簡

パストン書簡^{レターズ}とは、十五世紀イギリスのノーフオークに暮らした、土地持ちの紳士階級^{ジェントリー}の一族、パストン家の人々、および彼らの友人知人らによつて書かれた手紙や文書で、総計で千点以上にのぼる。家族や家政上の問題、訴訟や商取引きについて書かれた文章には文学的な虚飾は皆無で、政治的意味合いもごくわずかなものにすぎない。歴史家にとつての価値は、彼らがきわめて平凡な人々で、結果的に書簡には中世後期の風習や倫理観、生活様式やものの考え方に関する情報が豊富に含まれているという点にある。書簡の存在自体が、当時の紳士階級^{ジェントリー}の間に読み書きの能力が普及しつつあった事実を物語っていると同時に、家族が離ればなれの生活を強いられ、手紙による意志の疎通に頼らなければならなかった困難な時代を反映してもいる。

パストン家文書が初めて世に知られたのは、一七八七年のことだった。ノーフオークの地主でジョン・フェンという人物は、当時「好古家」と呼ばれた熱心なアマチュア歴史研究家のひとりだったが、彼が『ヘンリー六世、エドワード四世およびリチャード三世の御代^{みよ}にさまざまなる貴顕^{きけん}の士々によつて書かれた直筆書簡集』というおおげさなタイトルの二巻本を出版した。このタイトルは実体を表わしていない。書簡のほとんどが「貴顕の士々」の手に